

関係各位

高知県病害虫防除所長

令和 8 年度病害虫発生予察技術情報（第 2 号）

トマトキバガの誘殺数及び施設トマトで被害が増加しています

本種は令和 5 年 6 月に高知市で初めて誘殺が確認され(令和 5 年 7 月 14 日付け特殊報第 2 号)、現在までに高知市の他、香南市、日高村、佐川町、四万十町で発生しており、令和 8 年は令和 7 年に比べいずれの地域でも誘殺数が増加しています（表 1）。

さらに、これまでは県中西部で被害が確認されていましたが、本年に入り県中央部でも被害を確認し、現時点で約 2.5ha の施設トマトで被害が発生しています。

本種はガの一種（写真 1、2）であり、主要な寄主植物はトマト、ピーマン、ナス、タバコ、バレイショなどのナス科植物です。トマトでは茎葉に幼虫が潜り込んで食害（写真 3）するほか、果実にも食入し品質を大きく損ないます（写真 4）。

なお、令和 8 年 4 月現在、全都道府県で本種の発生が確認されており、29 道府県で農作物への被害等の情報が提供されていますが、トマト、ミニトマト以外での被害の報告はありません。

防除対策

- ほ場内を見回り見つけ次第捕殺してください。また、被害葉や被害果を見つけたらほ場から持ち出し、野外に放置せずに土中深くに埋却するかビニル袋に入れて一定期間密閉し本虫を死滅させてから処分しましょう。栽培終了時には蒸し込み等で密度を低減させてください。
- 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を設置し侵入を防止してください。すでに防虫ネットを設置している施設では破損箇所がないか確認し、必要に応じて補修してください。
- 薬剤防除の際は薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（IRAC コード）の異なる薬剤のローテーション散布を行ってください(表 2、3)。また、海外では、本虫に対して天敵（タバコカスミカメ）による防除効果が確認されています。

表 1 トマトキバガのフェロモントラップ誘殺状況(令和 8 年)

		香南市夜須町		高知市春野町		高岡郡日高村		高岡郡佐川町		高岡郡四万十町	
		R7	R8	R7	R8	R7	R8	R7	R8	R7	R8
1月	上中旬	0	1	0	2	0	1	0	3	0	1
	中下旬	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0
2月	上中旬	0	0	0	0	0	1	0	—	0	0
	中下旬	0	4	0	2	0	12	0	0	0	2
3月	上中旬	0	10	0	6	0	—	0	—	0	4
	中下旬	0	11	0	0	0	73	0	13	0	3
4月	上中旬	1	114	0	17	1	—	1	—	0	3
	中下旬	0	20	0	12	3	—	1	—	0	15



写真1 成虫



写真2 幼虫



写真3 幼虫による葉の被害（食害痕）
ハモグリバエ類に比べて食害痕の幅が広い



写真4 トマト果実の被害

表2 トマトキバガに登録のある薬剤(適用作物：トマト) 令和8年4月27日現在

IRACコード*	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数または使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC					
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アニキ乳剤	レビメクチン乳剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	アグリメック	アバメクチン乳剤	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF					
	ジャックポット顆粒水和剤	B T水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布
	ゼンターリ顆粒水和剤					
	デルフィン顆粒水和剤					
	チューレックス顆粒水和剤					
チューンアップ顆粒水和剤	B T水和剤	2000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布	
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ファイントリムDF					
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC		400株当たり25mL	育苗期後半～定植当日	1回	灌漑
	ブロッソ粒剤オメガ	シアントラニプロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	ブレバソフロアブル5	クロラントラニプロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
			1株当たり25ml	育苗期後半～定植当日	1回	灌漑
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨールフロアブル	テトラニプロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	ブレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

注) シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌漑は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)ですのでご注意ください。

表3 トマトキバガに登録のある薬剤(適用作物：ミニトマト) 令和8年4月27日現在

IRACコード*	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数または使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	
	ラディアントSC						
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	
6	アニキ乳剤	レビメクチン乳剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	
	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布	
11A	エスマルクDF						
	ジャックポット顆粒水和剤	B T水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布	
	ゼンターリ顆粒水和剤						
	デルフィン顆粒水和剤						
	チューレックス顆粒水和剤						
チューンアップ顆粒水和剤	B T水和剤	2000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布		
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	
28	ベネビアOD	シアントラニプロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布	
	ベリマークSC		400株当たり25mL	育苗期後半～定植当日	1回	灌漑	
	ブロッソ粒剤オメガ	シアントラニプロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布	
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	
	ヨールフロアブル	テトラニプロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布	
	30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	UN	ブレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

注) シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌漑は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)ですのでご注意ください。

※IRACコードとは、殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができます。

※ 実際の農薬使用に当たっては、登録内容を農薬ラベルで確認し、農薬ラベルの記載内容に沿って使用してください。

お問合せは、病害虫防除所(TEL：088-863-1132)または環境農業推進課(TEL：088-821-4861)まで